

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1274
施設名	ちょうふのぞみ保育園
施設所在地	調布市布田4-5-34
法人名	社会福祉法人春献美会

1. 活動のテーマ

自然 植物を育ててみよう（5歳児クラス）

<テーマの設定理由>

園庭のない園舎で、自然に触れ合う機会が少なく、限られた中でも園内の環境を整え、栽培物等、環境を工夫することで、子どもたちが植物の変化に触れたり、成長の変化の面白さに気付いたり、するきっかけを作っている。そこからさらに発展させ子どもたちの探求を深めていきたいという思いから今回のテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

5月 ピーマン、枝豆の苗を植える。

6月 朝顔、ひまわりの種、散歩先の公園で拾ってきた種を植える。

7月 給食で出たスイカの種を植える。ピーマンの収穫、調理。

3. 活動のための準備した素材や道具、環境の設定

土・プランター・鉢底石・苗・種

スケール・まな板・包丁・IHクッキングコンロ

プロジェクター（写真に撮った記録をじっくり見たり、変化を感じるきっかけ作り）

パソコン（子どもたちが疑問に思ったことを調べるため）

電子黒板

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

1. 子どもたちと栽培の計画を立てる。

今年の夏野菜は何を植えるか、子どもたちと相談しピーマンと枝豆に決定する。

花も植えてみたい。という意見から朝顔、ひまわりの種も植えることにする。

2. 子どもたちで買い物をし、プランターに子どもたちが植えていく。

自分たちで苗、種を買いに行く。苗や種の色や形を観察する。

土の感触を感じたり、根の部分を観察したりする。

3. 毎日の水やり、成長の様子を観察する。

4. 収穫・調理・食べる

自分たちで収穫。色や形、手触り、匂いなどを確かめる。

子どもたちとどうやって食べるか等相談し決める。

<活動中の子どもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり>

1. 「何を植える？」子どもたちと計画を立てる。

毎年行っている夏野菜づくりだが、子どもたちがもっと主体的に関わってもらいたいと思い、子どもたちと相談するところから始める。夏野菜って何だろう？というところから始め、図鑑やパソコンで調べながら、育ててみたい野菜を子どもたちに提案してもらう。きゅうり、トマト、オクラ、にんじん等々。中にはレモンという子もあり、レモンってどうやってなるんだろう？と調べ、木になっていることを知り、「小さい植木鉢じゃ育てられないよ」「木を育てるのは時間がかかるんだよ」などと、みんなで話をしながら、ピーマンと枝豆を植えることに決まる。花も植えてみたい！という意見もあり、朝顔とひまわりの種も植えることになる。

2. 苗、種植え



野菜の苗は自分たちで店まで買いに行く。土づくりも自分たちで行うが、土の感触や手が汚れるのを嫌がる子もいたが、土が野菜の栄養になることを知ると、「ピーマンのご飯なんだね」とつぶやく声が聞こえる。

3. 「大きくなーれ」毎日の水やり、観察



毎日の水やりは当番制で順番に行っていく。「大きくなーれ」と言いながら、葉が大きくなっていくこと、葉の数が増えていくこと、微妙な葉の形の違い、色の違いにも気づいて、保育者や友だちに自分の発見を伝える姿が見られる。花が咲くと、みなで喜び合い、実がなり、大きくなっていき、収穫を心待ちにしている。

4. 収穫 “大きさ比べ”



ピーマンを収穫すると、まず「ピーマンのにおいがする！」と、切り口からの匂いを感じ、「すべすべしてるね！」と感触を確かめている。初回は3つ収穫する。保育者が「この3つ何が違うかな？」と問いかけると、「体重をはかってみたらいいんじゃない？」「何センチかな」「味がちがうんじゃない？」「匂いも違うよ」と、様々な意見が出て、スケールや定規を使って確かめてみる。2回目以降の収穫は敢えて収穫するまで長く時間をあけると、ピーマンが赤くなってくる。それに気づくと、なんでだろう？と、疑問を持ち、「赤いピーマンは年を取ってるんじゃない？」「太陽にたくさん当たったから赤くなったんだよ」「食べたら辛いんじゃない？」「食べられるのかな？」と、興味を持つ。近くにいる保育者に「なんで赤くなるのかな？」と聞くがわからず、「じゃあ、図鑑で調べたらいいんじゃない？」と調べてもわからず、「パソコンで調べたらわかるんじゃない？」と、調べると、食べられることもわかり、調理をする。

調理方法についてはゆでる、炒める、焼く、そのまま食べるなどの案が出て、炒めることに決まる。例年、調理室での調理をお願いしていたが、今回は子どもたちの前で調理を行うことにする。調理中の油やピーマンの匂いで子どもたちの期待が膨らんでいる様子が見られる。食べる前は「ピーマン嫌いだから食べないよ」と言っていた子も、自分から口にし「美味しい！もっと食べたい！」と喜んでいた。色、大きさによって別に炒め、味や食感、匂いを確かめる。一回目の調理は保育者が行ったが、子どもたちから「やってみたい！」という意欲が見られ、二回目以降は、洗う、種を取る、包丁で切る、炒める、塩をふる、など子どもたちも一緒に行うようにする。

また、調理中、ピーマンを包丁で切っていると、「種も食べてみたい！」という声上がり、種も炒めて食

べてみる。炒めてみると、熱が加わり種がはじけていく様子を見て、「ポップコーンみたい！」「ポップコーンも種なんじゃない？」という声からポップコーンについてもパソコンで調べてみる。そしてその種を「また土に植えてみよう！」「そしたらまたピーマンができるよ！」という声もあがり、プランターに植える。芽が出てくると皆で喜びその成長を観察する。成長するにしたいが、「この葉っぱ形が違うよ」と元のピーマンの苗と違うことに気づき、「なんでだろう？」「これ雑草なんじゃない？」と観察しながら考える姿がある。

ピーマンを全て収穫した後、苗の処理は保育者が行っていたが、今回はこの作業も子どもたちと一緒に相談し行い、来年につながる土づくりを行う。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

例年野菜の栽培を行ってきたが、今回すくわくプログラムの活動を通して、話し合いの機会を多く設け、子どもたちの話をじっくりと聞く、子どもたちの気づきから活動を展開する、という子ども主体の活動を行うことができたと思う。子どもたちも友だちの意見を聞き、自分とは違う考えや発想があることに気づくことができていた。また、保育者の関わり方についても学びが多かった。子どもたちの興味関心が広がるような声かけ、環境の整え方など深く考える機会になった。

今後は、今回の活動から得たことを活かし、保育者主導になりがちな日々の保育を見直し、子どもたちの姿や言葉から次の活動を考えていく保育をしていきたいと思う。